



障害をもつ人のための教室からもメンバーが出演。  
会場は感動に包まれた

## ヘルマンハーブ チャリティコンサート& 公認・教則本出版

本誌前号の表紙にも登場してもらった「ヘルマンハーブ」。ダウン症の息子さんのために父、ヘルマン・フェー氏が開発したドイツで生まれのこの楽器の美しい音色に魅せられ、カルチャーセンターや音楽教室を拠点に愛好家が全国に広がっている。人の心を慰め、落ち着かせる音色は、今、まさに必要とされている音。ヘルマンハーブの演奏家、指導者で日本ヘルマンハーブ協会理事長の梶原千沙都さんも、被災地での演奏を行なったという。このヘルマンハーブのチャリティコンサートが多くのお客様を迎えて盛大に開催された（10月29日／トッパンホール）。

楽譜が読めなくても、専門的な音楽の知識がなくても、すぐに曲を演奏でき、障害をもつ人も、高齢の方も、誰もが同じように音楽を楽しめるバリアフリーの楽器であることが、ヘルマンハーブの最大の魅力。今後も、街の愛好家一人ひとりの想いによって、さらに広がっていくであろうヘルマンハーブに、待望の教則本が誕生する（音楽之友社より2012年2月発行予定）。日本ヘルマンハーブ協会公認の「ヘルマンハーブの奏法〈基礎編〉」には、ヘルマンハーブ独自の楽譜の読み方（弦の下にはさむので、見たまま弾ける）、基本奏法などがまとめられている。28曲の楽譜もついた本書を起点に、ヘルマンハーブ愛好の輪がますます広がっていきそうだ。